

## 視覚障害及び聴覚障害のある子どもに関する教育実践の現状と課題 －各国の教育支援の実際とその効果－

千田 耕基  
(視覚障害教育研究部)

### 1. はじめに

独立行政法人国立特殊教育総合研究所は、アジア・太平洋地域の発展に向けた教育革新プログラム (Asia and the Pacific Programme of Educational Innovation for Development : APEID) の協同センターの一つとして、1981年以来、特殊教育に関するAPEIDセミナーを開催してきたが、平成14年度からは、新たに「アジア・太平洋特殊教育国際セミナー」として、独立行政法人国立特殊教育総合研究所(以下、本研究所)と日本ユネスコ国内委員会の主催の下で開催されることとなった。

### 2. 本年度のセミナーについて

本セミナーは、アジア・太平洋及びオセアニア地域の国々の特殊教育の発展と教育の向上に資することを目的に、本研究所が特殊教育専門家を各国から招聘し、実施した。今年度は「視覚障害及び聴覚障害のある子どもに関する教育実践の現状と課題 - 各国の教育支援の実際とその効果 -」をテーマに、各国の研究発表やシンポジウムを平成14年11月11日から16日までの6日間にわたって、横浜シンポジウムを主会場として実施した。

セミナーへの参加国は、オーストラリア、中国、インド、インドネシア、日本、マレーシア、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、韓国、スリランカ、タイの13カ国であった。各国の特殊教育専門家がセミナー報告者として参加し、本研究所のスタッフ及び国内の研究者や特殊教育諸学校の教員等が多数参加した。以下に、今回のセミナーの概要について報告する。

### 3. セミナーの実施内容

#### 1) 開催テーマ

視覚障害及び聴覚障害のある子どもに関する教育実践の現状と課題 - 各国の教育支援の実際とその効果 -

#### 2) 主催

独立行政法人国立特殊教育総合研究所  
日本ユネスコ国内委員会

#### 3) セミナーの日程

開催日程 平成14年11月11日(月)～11月16日(土)  
11月11日(月) 各国報告者来日  
11月12日(火) 開会式、研究発表  
11月13日(水) 研究発表  
11月14日(木) シンポジウム  
11月15日(金) 関係施設見学  
11月16日(土) 各国報告者離日

#### 4) 研究発表者及びシンポジスト

今回は、感覚に障害がある子どもの教育に焦点を当てて「視覚障害及び聴覚障害のある子どもに関する教育実践の現状と課題 - 各国の教育支援の実際とその効果 -」というテーマで、研究発表や研究協議及びシンポジウムを行った。

研究発表は、以下の13カ国から14名が参加し、テーマに基づいた発表を行った。

オーストラリア：フィールド・ウィンストン・リカーズ氏  
メルボルン大学副学長、聴覚障害教授

中国：ヤン・シージー女史

国立中国教育研究所・特殊教育部、研究助手

インド：シテンドラ・モハン・ハンス氏

R. M. L. 病院、耳鼻咽喉科長

インドネシア：スディオノ氏

国立教育省教育発達研究所・カリキュラム発達センター、主任研究員

日本：工藤 伸一氏

神奈川県立平塚盲学校、教諭

日本：佐藤 正幸氏

独立行政法人国立特殊教育総合研究所・聴覚・言語障害教育研究部室長

マレーシア：ウォング・ウェ・レング女史

教育省特殊教育課、課長補佐

ネパール：ラバ・プラサット・トリパティ氏  
教育省初等教育課、課長  
ニュージーランド：ジョアンナ・カーズン女史  
教育省特殊教育部門政策支援課、主任アドバイザー  
パキスタン：ラビア・アミール女史  
イスラマバード国立特殊教育研究所、副所長  
フィリピン：ミネルバ・ティー・ファブロス女史  
教育省11地域第2SPEED、特殊教育スーパーバイザー  
韓国：キョンスー・カン女史  
国立特殊教育院、教育研究士  
スリランカ：ヘマ・マリネ・ペレラ女史  
人材発達教育文化省、課長補佐  
タイ：ランブン・シーミーチャイ女史  
教育省一般教育部特殊教育課、教育官

シンポジウムは、以下の3カ国の3名がテーマに基づいた発表を行った。

オーストラリア：フィールド・ウィンストン・リカーズ氏  
メルボルン大学副学長、聴覚障害教授  
フィリピン：ミネルバ・ティー・ファブロス女史  
教育省11地域第2SPEED、特殊教育スーパーバイザー  
日本：千田 耕基氏  
独立行政法人国立特殊教育総合研究所・視覚障害教育研究部長

#### 5) 研究発表の内容

研究発表は、ア) 視覚障害あるいは聴覚障害のある子どもの指導内容及び方法に関すること、イ) 視覚障害あるいは聴覚障害のある子どもの教材・教具の開発及び活用に関すること、ウ) 通常の学校における視覚障害あるいは聴覚障害のある子どもの教育に関すること、について各国から報告がなされた。

研究発表第1日の午前は、「視覚障害のある子どもの指導内容及び方法に関すること」について、パキスタンから「Providing Effective Teaching Material and Methods for children with Visual Impairment」、マレーシアからは「The Current Situations and Future Trends of Educational Practice for Children with Visual Impairments - Practice and its Outcome of Educational Support in Malasia」についての発表があり協議が行われた。

午後は、「通常の学校における視覚障害のある子どもの教育に関すること」を主にして、インドネシアから「Practice and its Outcome of Educational Support in Indonesia」、そしてニュージーランドから「Education for Children with Visual Impairment in Regular Schools in NEW ZEALAND」、スリランカからは「The Current

Situations and Future Trends of Educational Practice for Children with Visual Impairments」、タイから「Thailand of Education'Development Plan on the Provision of Education for the Disabled of THAILAND」、そして日本から「The Roles of Schools for the Blind as Centers for Supporting the Visually Impaired - Mainly Support for Visually Impaired Children Attending Ordinary Schools(the Case of Kanagawa Prefecture) -」、韓国から「Education for Children with Visual Impairment in Regular Schools」という表題で発表・協議があった。

研究発表第2日目の午前は、「聴覚障害のある子どもの指導内容及び方法に関すること」について、ネパールから「The Current Situations and Future Trends of Educational Practice for Children with Visual/Hearing Impairments - Practice and its Outcome of Educational Support in the Kingdom of Nepal」、オーストラリアからは「Spoken Language Outcomes for Australian Children with Impaired Hearing: Present and Future Trends」、フィリピンからは「The Cooperative Learning: A Proposed Technique in Teaching Reading with Comprehension to Students with Hearing Impairment」、そして日本からは「The Early Intervention for an Infant with a Hearing Impairment - Support in the First Sixteen Months -」について発表があり協議した。

午後は「通常の学校における聴覚障害のある子どもの教育に関すること」を主に、中国から「Rewrite the Lives of Children with Hearing Impairment: A Case Study of an LRC teacher」、そしてインドから「Education of Hearing Impaired Children in Regular Schools」について発表があり協議した。その後全体協議があり、活発な質疑・協議があり意見交換がなされた。

各国の発表から、障害児の早期発見と早期の医療・教育的対応の確立、障害児に対する就学率の向上を図ること、そして障害のある子どもたちへの特別な指導の必要性とその基盤となる教育プログラムの確立、また、専門教員の養成等が共通的な課題となっており、インクルージョンによる教育支援システムの成果などに活発な意見交換が行われた。

#### 6) シンポジウムの内容

シンポジウムは3日目に「視覚障害あるいは聴覚障害のある子どもの教育の場と、個々のニーズに応じた教育実践の現状及び課題」というテーマで開催された。

シンポジストとして、オーストラリアのリカーズ氏は、オーストラリアにおける聴覚障害児の教育の現状について、フィリピンのファブロス女史からは、フィリピンの障害児教育の施策とその現状について報告があり、日本の千

田からは、日本の教育システムと特殊教育の必要性と特別支援教育の現状について報告があり、(1) 障害のある子どもの教育にかかるカリキュラム開発、そして、特殊教育の専門教員の養成と通常教員に対する特殊教育専門研修のシステム作り、(2) アジア・太平洋地域における特殊教育発展のための国際協力としてのネットワーキングを構築し、情報の交換や交流を図ることなどについて、活発な協議や意見交換が行われた。

#### 7) 関係施設訪問

4日目午前は、本研究所及び隣接する国立久里浜養護学校を見学し、午後は横浜市立聾学校及び横浜市立盲学校を訪問・見学し、実際の指導場面の見学や担当教員等との協議を通じた情報交換を行い、本セミナー参加国における今後の教育資料としての情報収集を行った。